妊産婦の印象に残った看護師・助産師の関わり

2 階西病棟
〇廣田 藍　　谷内 彩乃

【研究目的】妊産婦と看護師・助産師の信頼関係構築過程において、妊産婦の印象に残った看護師・助産師の関わりの内容を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】2010 年 5 月から 7 月にＡ大学病院で経腟分娩した産後 2 日目から 3 日目の褥婦を対象とし、半構成的質問紙を用いた面接法を実施し、得られたデータを質的・帰納的に分析した。

【結果】研究対象者は初産婦 2 名、経産婦 3 名であった。妊産婦の印象に残った看護師・助産師の関わりについての内容は、【知識の提供】、【ケアの提供】、【専門性を感じる対応】、【精神的支援】、【医療者同士の連携】であった。

【考察】妊産婦は、看護師・助産師の関わりとして、妊娠経過の把握や分娩・育児に向けた知識の提供、助産ケアや分娩時の判断・対応が印象的と捉えていた。そして、看護師・助産師の態度や対応の仕方が印象に残っていることが明らかとなった。また、診察やケアを担当する医療者と相互に面識を持つことや、看護師・助産師との世間話が印象的であったことがわかった。分娩場面においては、妊産婦に寄り添う姿勢が印象的とされていた。さらに、妊産婦は分娩時、直接関わる助産師だけでなく、それ以外の医師や看護師・助産師の行動を客観的に観察していることが明らかとなった。以上のことから、看護師・助産師の適切なケアや対応、精神的支援、医療者同士の連携は、妊産婦との関わりの中で重要な要素となっていることが考えられた。

〔 平成 23 年 3 月 5 日　高知母性衛生学会（高知）にて発表 〕